

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成30年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成30年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 4～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 30 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 30 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	32
建 設 業	26
小 売 業	44
サービス業	46
合 計	148

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成30年4月～6月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より0.4ポイントの若干の改善で△31.8(前期△32.2)となった。産業別にみると、製造業が△25.0(前期△19.3)と△5.7ポイント悪化、建設業で△15.4(前期△24.0)と8.6ポイント改善、小売業で△56.8(前期△45.5)と△11.3ポイント悪化、サービス業では△21.7(前期△32.6)と10.9ポイントの改善であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H30年1月～3月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△25.0(前期△16.1)で△8.9ポイントの悪化、建設業は△23.1(前期△36.0)で12.9ポイントの改善、小売業は△54.6(前期△48.8)と△5.8ポイントの悪化、サービス業では△17.8(前期△40.4)と22.6ポイントの改善であった。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で△21.9(前期△29.0)と7.1ポイント改善、建設業で△23.1(前期△36.0)と12.9ポイント改善、小売業で△61.4(前期△50.0)と△11.4ポイント悪化、サービス業では△22.7(前期△32.7)と10.0ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では21.9%で前期比5.8ポイント増加、建設業では15.4%で前期比7.4ポイント増加、小売業では6.8%と前期比4.5ポイント増加、サービス業では13.0%と前期比△1.9ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2018年（H30年）6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2018年3月調査)と比較して製造業がマイナス1ポイント悪化のプラス14、非製造業はマイナス2ポイント悪化のプラス8だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業・小売業で悪化、建設業・サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・小売業では全国・東北以下、建設業では全国以下、東北以上、サービス業では全国・東北以上であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.3	△ 5.8	△ 16.0	△ 19.0	△ 16.1	△ 25.0
建 設 業	△ 9.7	△ 9.2	△ 21.5	△ 25.8	△ 36.0	△ 23.1
小 売 業	△ 38.9	△ 31.0	△ 42.4	△ 39.6	△ 48.8	△ 54.6
サービス業	△ 26.6	△ 18.3	△ 36.2	△ 23.0	△ 40.4	△ 17.8

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・建設業・サービス業で改善、小売業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業・サービス業で全国以下、東北以上、建設業・小売業で全国・東北以下であった。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 16.7	△ 12.0	△ 18.0	△ 23.5	△ 29.0	△ 21.9
建 設 業	△ 14.3	△ 11.2	△ 25.7	△ 21.0	△ 36.0	△ 23.1
小 売 業	△ 36.7	△ 30.8	△ 39.8	△ 39.9	△ 50.0	△ 61.4
サービス業	△ 29.6	△ 22.1	△ 36.4	△ 24.6	△ 32.7	△ 22.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H30年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で9.4ポイントの改善、建設業で△11.6ポイントの悪化、小売業で12.8ポイントの改善、サービス業でも9.1ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で9.4ポイントの改善、建設業で△7.7ポイントの悪化、小売業で13.7ポイントの改善、サービス業で2.2ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上は全国で若干の悪化、宮城で改善、採算は全国・宮城で改善の見通しとなった。建設業では、売上は全国・宮城で悪化、採算は全国で若干の悪化、宮城で悪化の見通しとなった。小売業では、売上は全国で若干の改善、宮城で改善の見通し、採算では全国・宮城で改善の見通しとなった。サービス業では、売上では全国・宮城で改善の見通し、採算でも全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 5.8	△ 6.0	△ 25.0	△ 15.6
建設業	△ 9.2	△ 11.1	△ 23.1	△ 34.7
小売業	△ 31.0	△ 30.4	△ 54.6	△ 41.8
サービス業	△ 18.3	△ 14.9	△ 17.8	△ 8.7

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 12.0	△ 10.0	△ 21.9	△ 12.5
建設業	△ 11.2	△ 12.1	△ 23.1	△ 30.8
小売業	△ 30.8	△ 28.1	△ 61.4	△ 47.7
サービス業	△ 22.1	△ 18.7	△ 22.7	△ 20.5

2. 県下産業別の景況

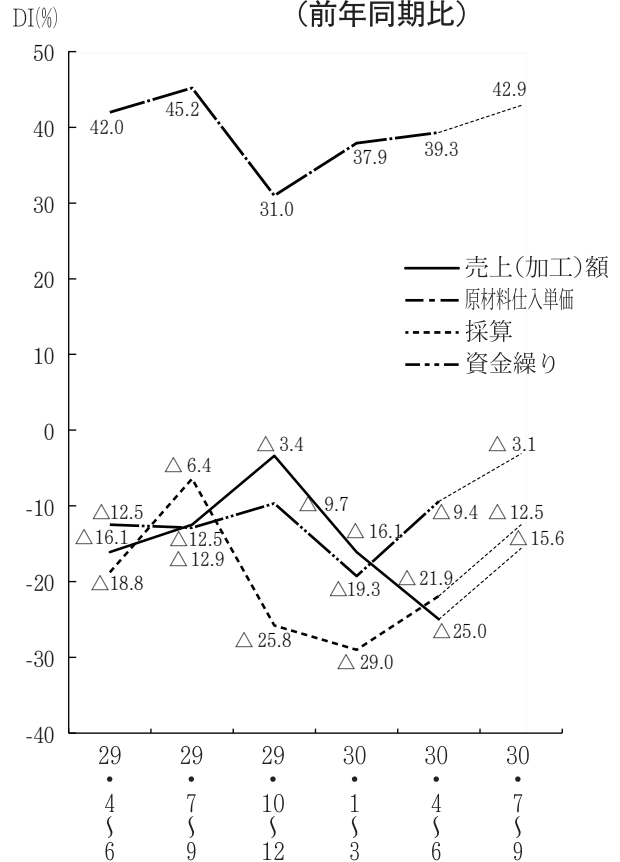
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期 $\Delta 25.0$ （前期 $\Delta 16.1$ ）となり $\Delta 8.9$ ポイント前期より悪化、採算D Iは今期 $\Delta 21.9$ （前期 $\Delta 29.0$ ）で7.1ポイントの改善、資金繰りD Iも今期 $\Delta 9.4$ （前期 $\Delta 19.3$ ）で9.9ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期 39.3（前期 37.9）と1.4ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



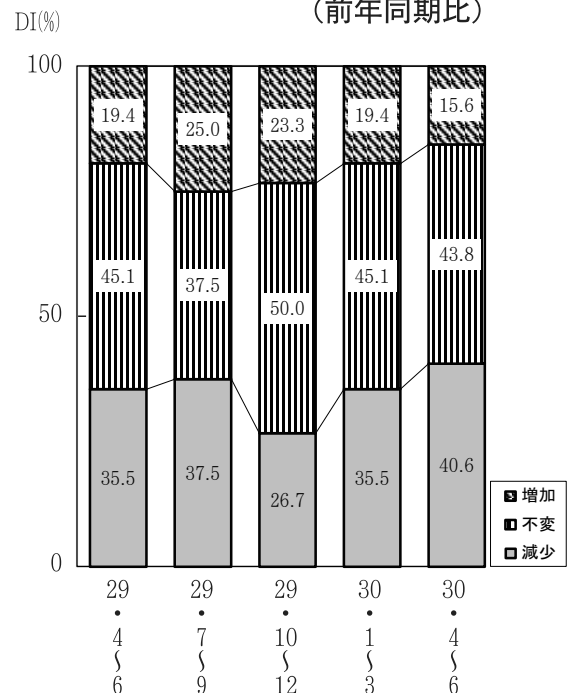
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の15.6%（前期19.4%）と $\Delta 3.8$ ポイント減少し、「減少」と回答した企業は40.6%（前期35.5%）と5.1ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは $\Delta 25.0$ （前期 $\Delta 16.1$ ）となり前期比 $\Delta 8.9$ ポイント悪化した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

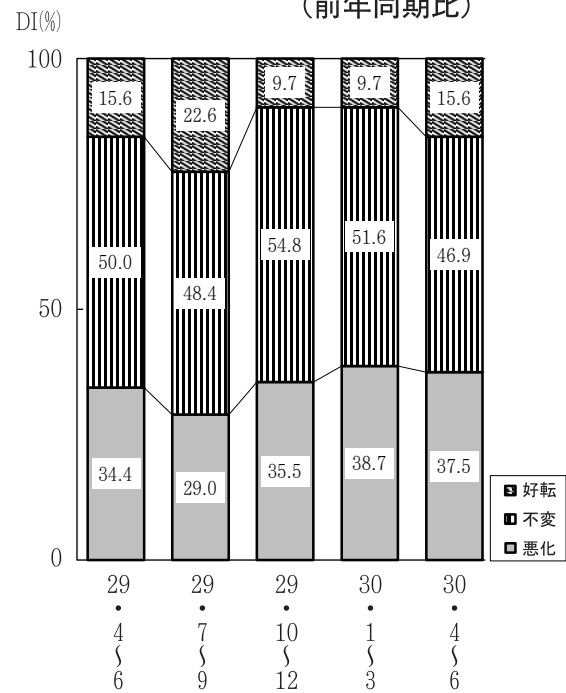


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 15.6% (前期 9.7%) で 5.9 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は 37.5% (前期 38.7%) で Δ 1.2 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は Δ 21.9 (前期 Δ 29.0) で前期比 7.1 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



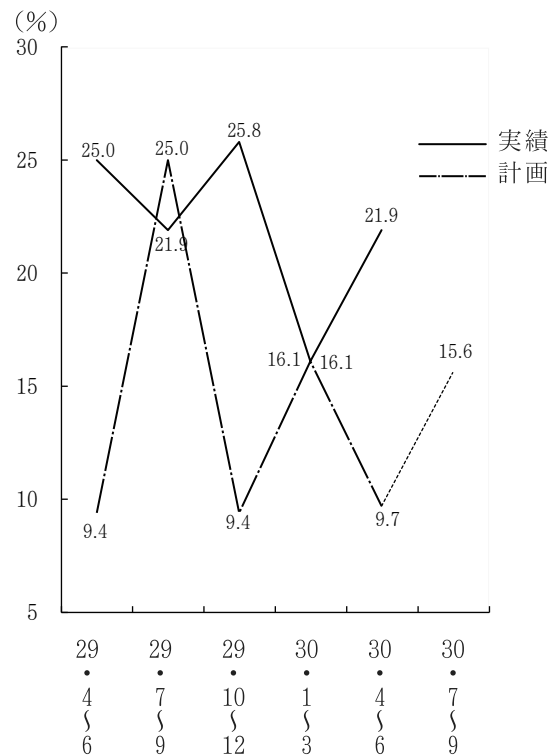
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 21.9% (前期 16.1%) で、前期と比べ 5.8 ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.6% で、その設備内容は工場建物、生産設備、付帯施設、OA機器となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

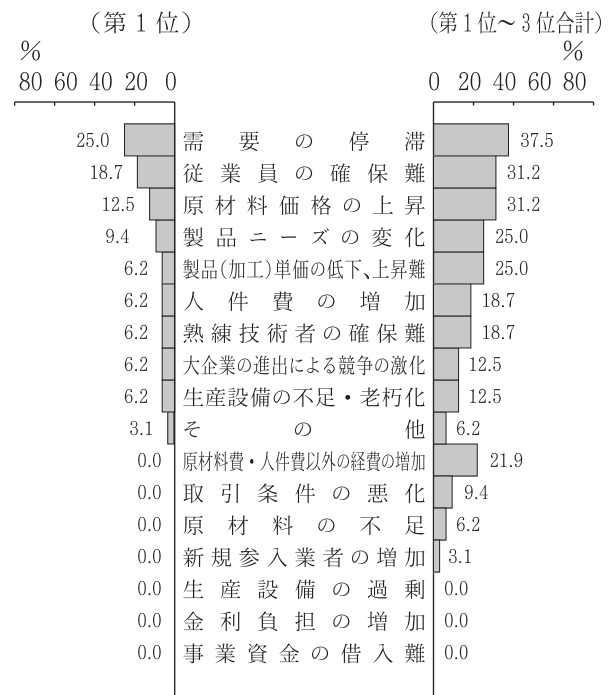


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で25.0%、次いで「従業員の確保難」が18.7%、「原材料価格の上昇」が12.5%が続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が37.5%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「従業員の確保難」と「原材料価格の上昇」が同率31.2%が続いた。

図1-5 経営上の問題点



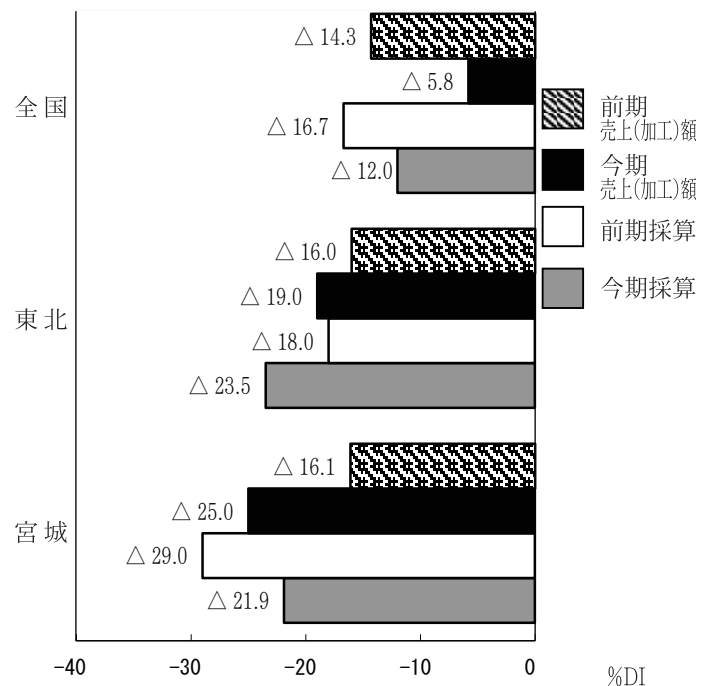
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全国で改善、東北・宮城で悪化した。その悪化度は宮城、東北の順であった。

採算DIの比較では全国・宮城で改善、東北で悪化した。その改善度は宮城、全国の順であった。

本県回答事業者からは「昨年度より業績は徐々に好転、引き続き好調を維持」(金属加工業)や、「人材不足が目立ってきている」(縫製業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



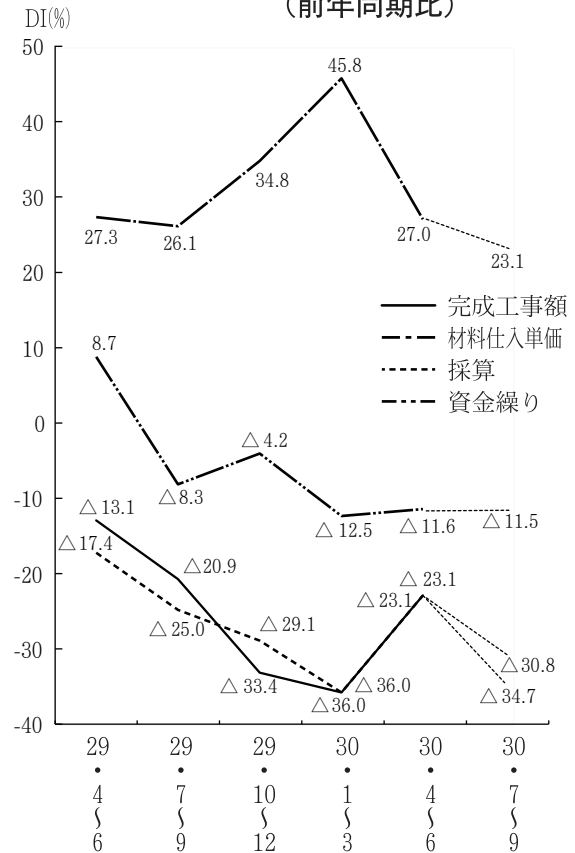
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△23.1（前期△36.0）と前期より12.9ポイント改善、採算D Iは今期△23.1（前期△36.0）で12.9ポイント改善、資金繰りD Iも今期△11.6（前期△12.5）と0.9ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期27.0（前期45.8）と前期より△18.8ポイント下落した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



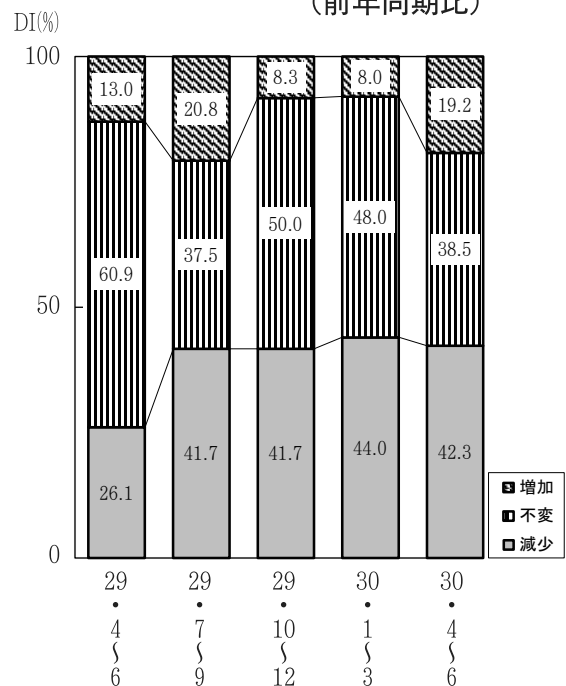
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の19.2%（前期8.0%）で11.2ポイント増加、「減少」と回答した企業は42.3%（前期44.0%）で△1.7ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△23.1（前期△36.0）と12.9ポイント前期より改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

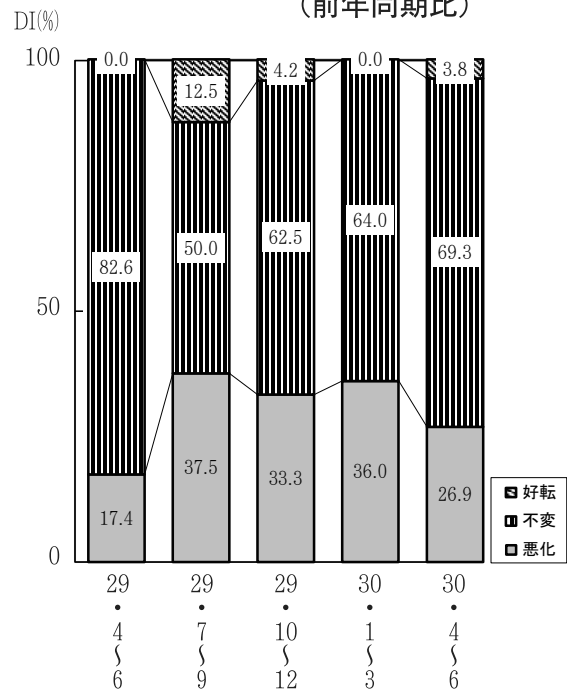


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 3.8% (前期 0.0%) で 3.8 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 26.9% (前期 36.0%) で△9.1 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△23.1 (前期△36.0) と 12.9 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



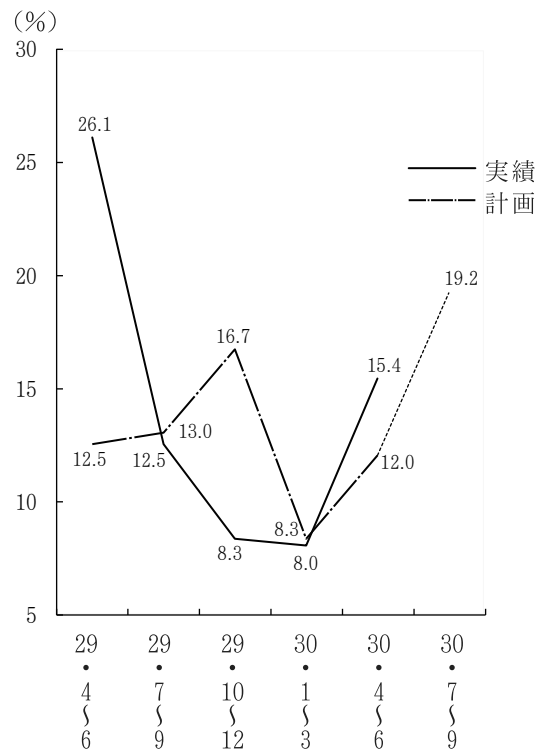
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 15.4% (前期 8.0%) で、前期より 7.4 ポイント増加した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 19.2%で、その設備内容は、土地、建設機械、車両・運搬具となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

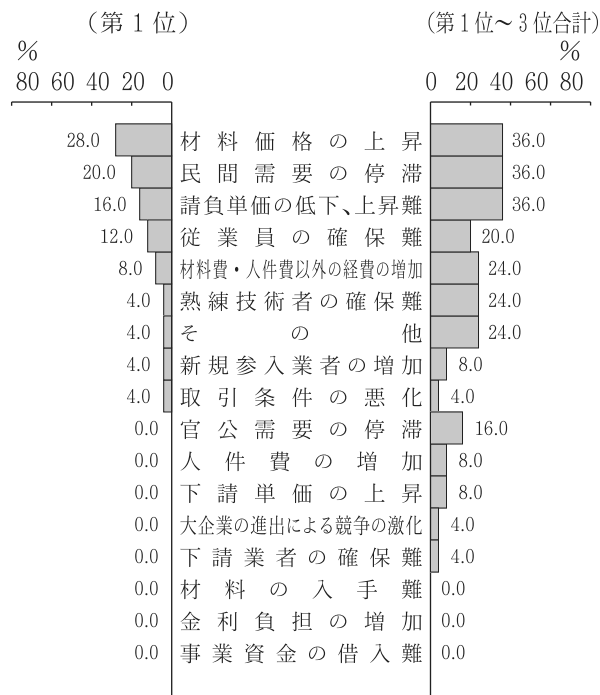


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が28.0%で、次いで「民間需要の停滞」が20.0%、「請負単価の低下、上昇難」が16.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」、「民間需要の停滞」、「請負単価の低下、上昇難」が36.0%（複数回答計）で同率最上位であった。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

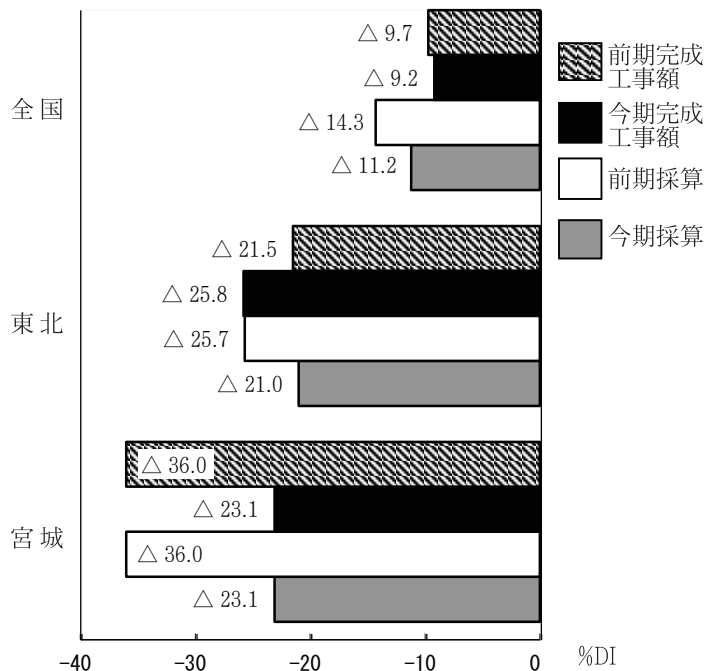
今期と前期との比較では、完成工事額D I は全国で若干の改善、東北で悪化、宮城で改善した。

採算D I の比較では、全区分で改善した。

その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「他社で扱っていない独自の原材料の引き合いが増加」や、「民間需要が徐々に減少」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



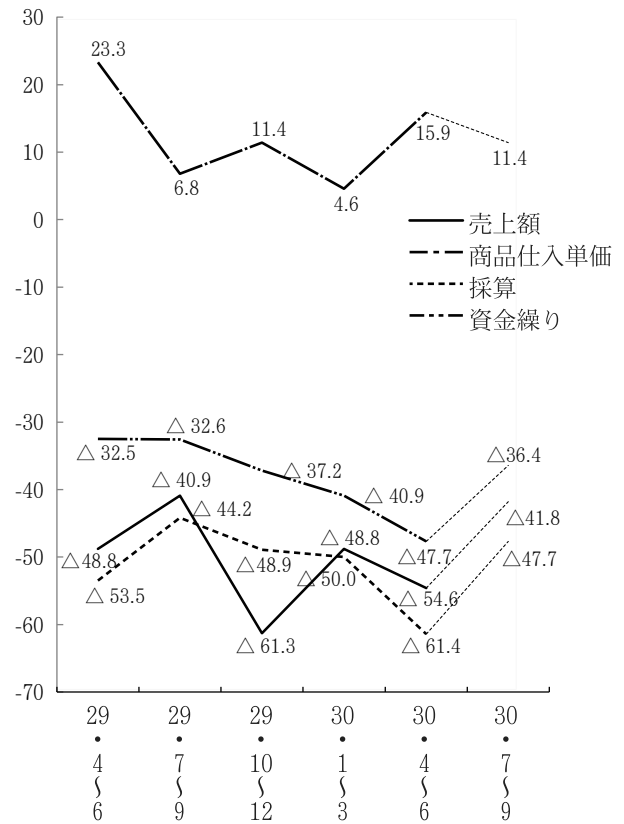
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△54.6（前期△48.8）と前期に比べ△5.8ポイントの悪化、採算D Iは今期△61.4（前期△50.0）で△11.4ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△47.7（前期△40.9）で△6.8ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期 15.9（前期 4.6）となり、11.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



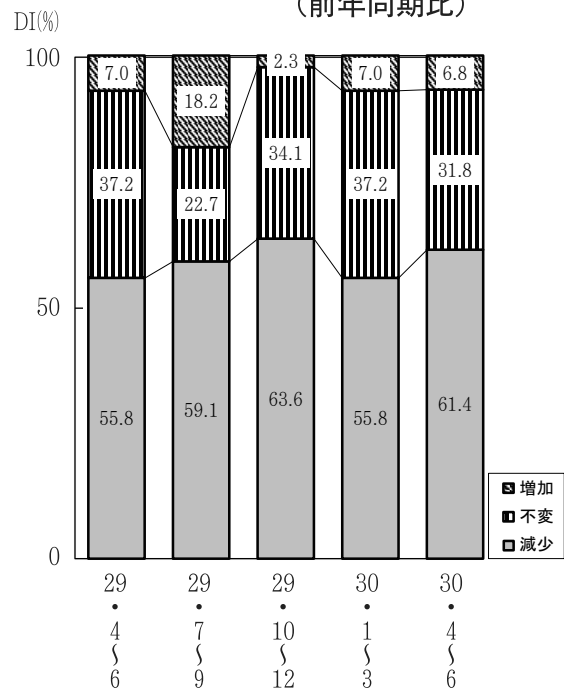
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の6.8%（前期7.0%）で△0.2ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の61.4%（前期55.8%）で5.6ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△54.6（前期△48.8）と△5.8ポイント前期より悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

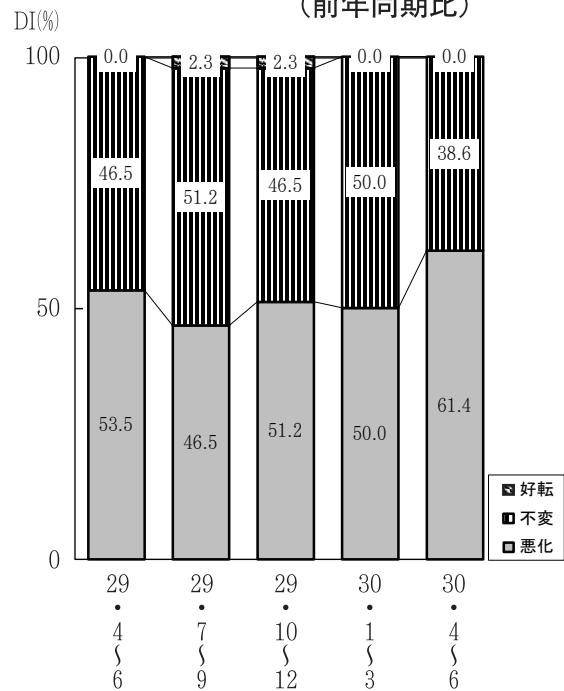


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期0.0%）と横ばい、「悪化」の回答は、今期は全体の61.4%（前期50.0%）で11.4ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△61.4（前期△50.0）で、前期より△11.4ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



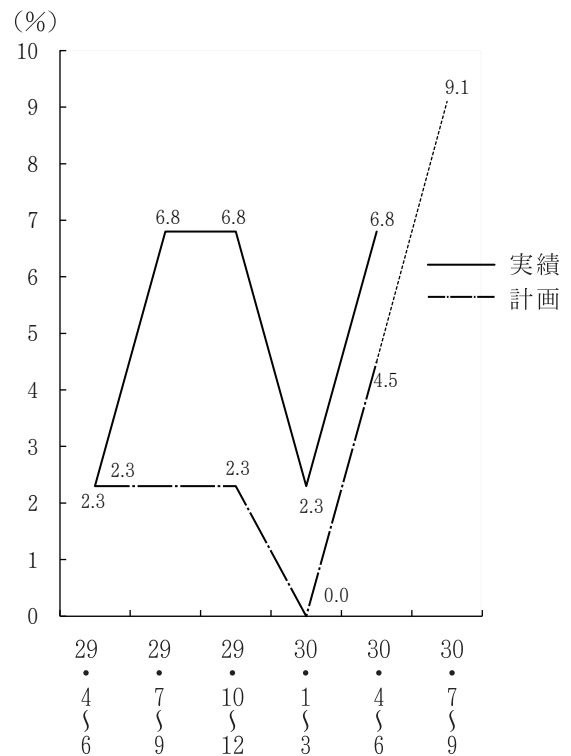
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の6.8%（前期2.3%）で、前期より4.5ポイント増加した。

その設備内容は、店舗、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.1%で、その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、その他となっている。

図3-4 設備投資の状況

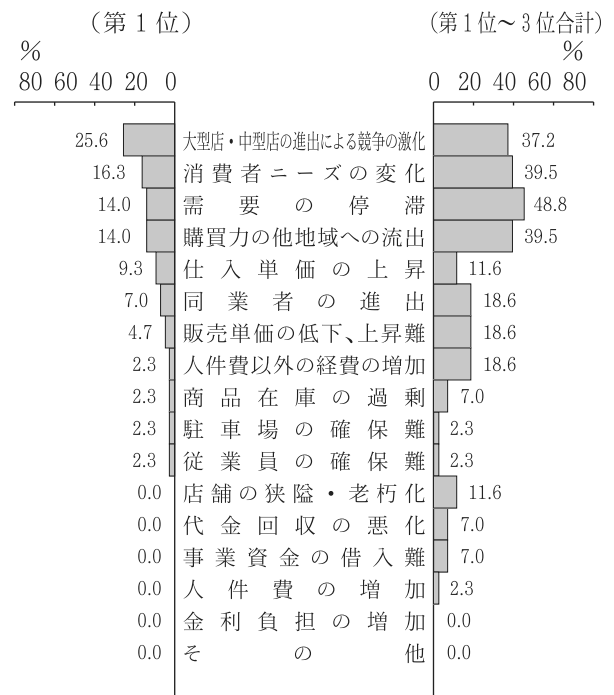


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で25.6%、次いで「消費者ニーズの変化」が16.3%、「需要の停滞」と「購買力の他地域への流出」が同率14.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が48.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「消費者ニーズの変化」と「購買力の他地域への流出」が同率39.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

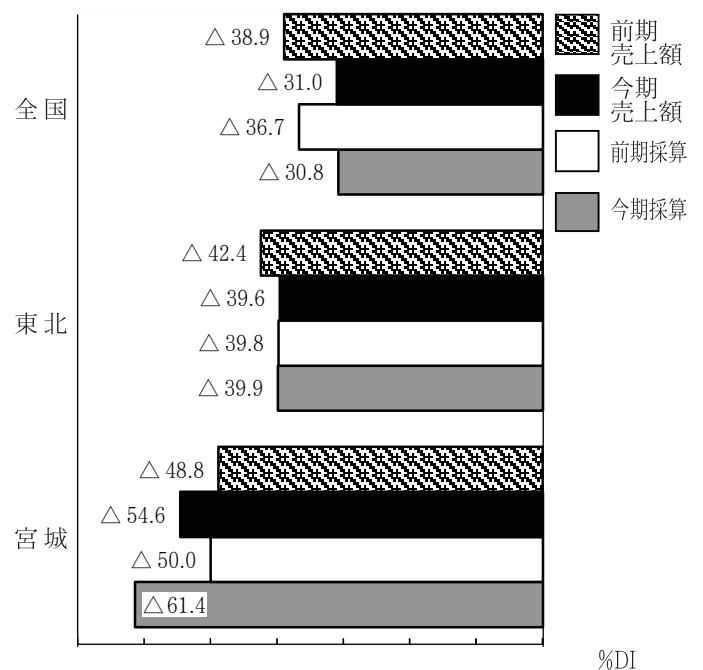
今期と前期の比較では、売上DIは全国・東北で改善、宮城で悪化した。

その改善度は全国、東北の順であった。

採算DIでは全国で改善、東北で若干の悪化、宮城で悪化した。

本県回答事業所から「テナント出店依頼を受けるも店長クラスの社員確保が困難」（青果販売）や「商品部門を一つに絞って売り上げ回復を目指す」（食品販売）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



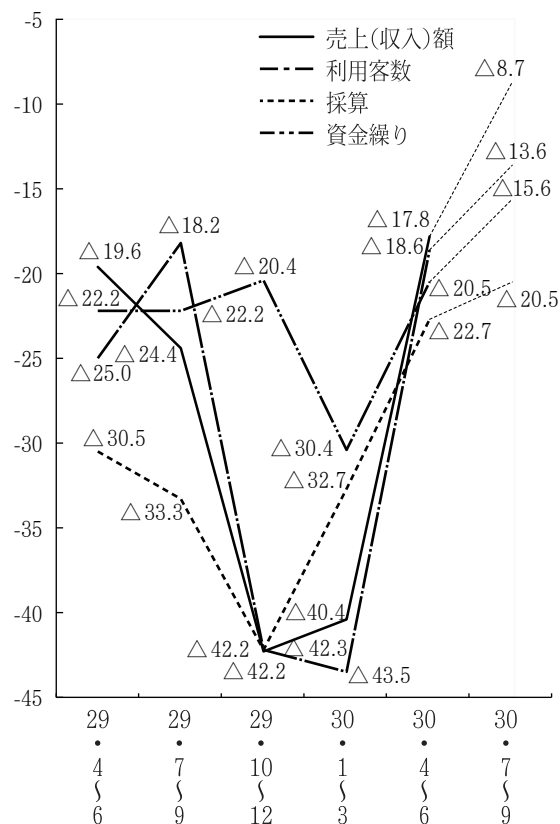
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△17.8（前期△40.4）で22.6ポイント改善、採算D Iも今期△22.7（前期△32.7）で10.0ポイント改善、資金繰りD Iも今期△20.5（前期△30.4）で9.9ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△18.6（前期△43.5）で24.9ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



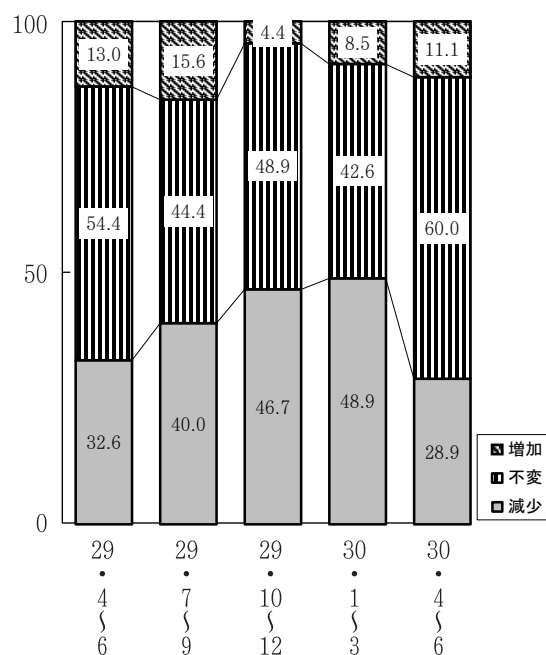
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の11.1%（前期8.5%）で2.6ポイント増加、「減少」の回答は今期28.9%（前期48.9%）で△20.0ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△17.8（前期△40.4）で前期より22.6ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

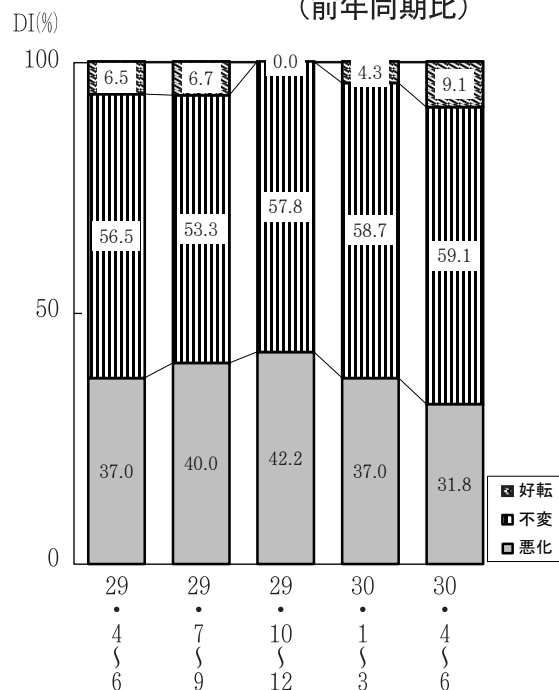


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の9.1%（前期4.3%）で4.8ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期31.8%（前期37.0%）と△5.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△22.7（前期△32.7）で前期より10.0ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



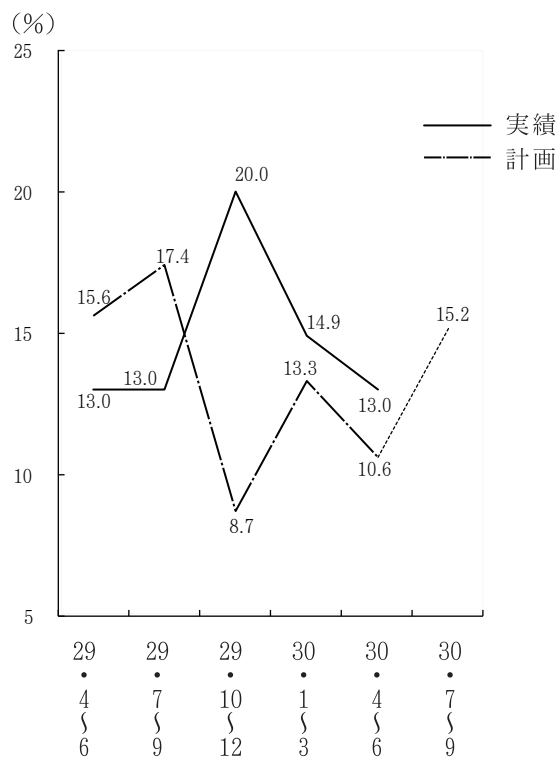
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の13.0%（前期14.9%）で、前期より△1.9ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の15.2%であり、その設備内容は、建物、サービス、付帯施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

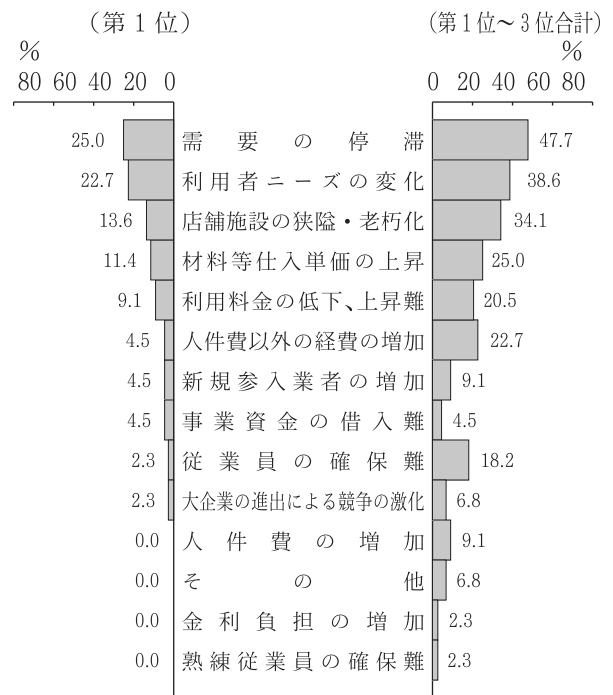


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」で25.0%、次いで「利用者ニーズの変化」が22.7%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が13.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が47.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「利用者ニーズの変化」が38.6%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が34.1%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全区分で改善となった。

その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも全区分で改善となった。

その改善度は東北、宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは「飲食等の宣伝雑誌の掲載により売上上昇」(飲食業)や「新規顧客が伸び悩んでおり、どう顧客開拓していくかが課題」(理容業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

